

利益が出たら何に使いますか？

日本各地で旅館を運営する星野リゾートの星野佳路社長のブログから引用しました。

ご存知のように星野リゾートは不振旅館の再生や自らのブランドで高級旅館を手掛けています。そのような会社でも先代のときは、まだ家業だったようです。

星野社長は家業から企業へ変革するなかで利益について次のように語っています。

企業への脱皮に欠かせないことは「税金を支払うこと」ですね。それは決算上、利益を出す会社にならなければならないということです。そうしないと、金融機関から借り入れもできないし、設備投資もできません。優秀な社員も集められない。当社は上場していないので、決算は公開していませんが、大学生向けのリクルートブックには掲載し、収益率が高いことをアピールしています。

私も会社の利益が出始めた頃、節税について考えたことがあります。ただ、そのために不要なモノを買っても、会社の競争力にはつながらない。もちろん税率は低い方がいいですが小細工しても

仕方ない。やはり企業になるには小さなお金の使い方ではなくて、何を指すかが大事だと思います。

利益が出れば誰でも節税を考えるのではないのでしょうか。将来につながるような節税もあると思いますが、そうでないものもあります。

例えば、生命保険を活用し従業員の福利厚生を厚くする、決算賞与を支給して従業員の功績に報いるというのは、よいお金の使い方だと思います。

反対に、不必要なものを購入したり、交際費という名目で散在することもあります。

顧客との関係を深めるために接待することは全く不要とは考えませんが、「節税のために・・・」というのは違うように思います。

企業に現金を残していくことは、経営の安定性につながります。何十年も経営していれば、良いときも悪いときもあります。ましてや自然災害などで急に業績が悪化することを我々は経験しました。

このような事態に対処するには、豊富な現金や金融機関に対する信用が必要です。

信用を得るためには、星野社長も書かれていた「税金を支払うこと」しかありません。

税金を支払い、残ったお金が会社の資産になるわけです。貸借対照表の左の一番上ですね。

ここを厚くしようと思ったら、無駄な出費を減らし、税金を支払うしかありません。

節税したときは、得をしたような気分になりますが、長期的に見れば大して得になっていないことが多いと思います。

もし、お金を使うなら将来の我が社や取引先のためになる「何か」にすべきです。今ではなくて将来への投資（従業員教育など）が良いと思います。

家業から企業になるためには、経営者の意識変化が必要ということでしょうか。ある経営者は、パスモやETCカードもきちんと使い分け公私混同をしないようにしていました。